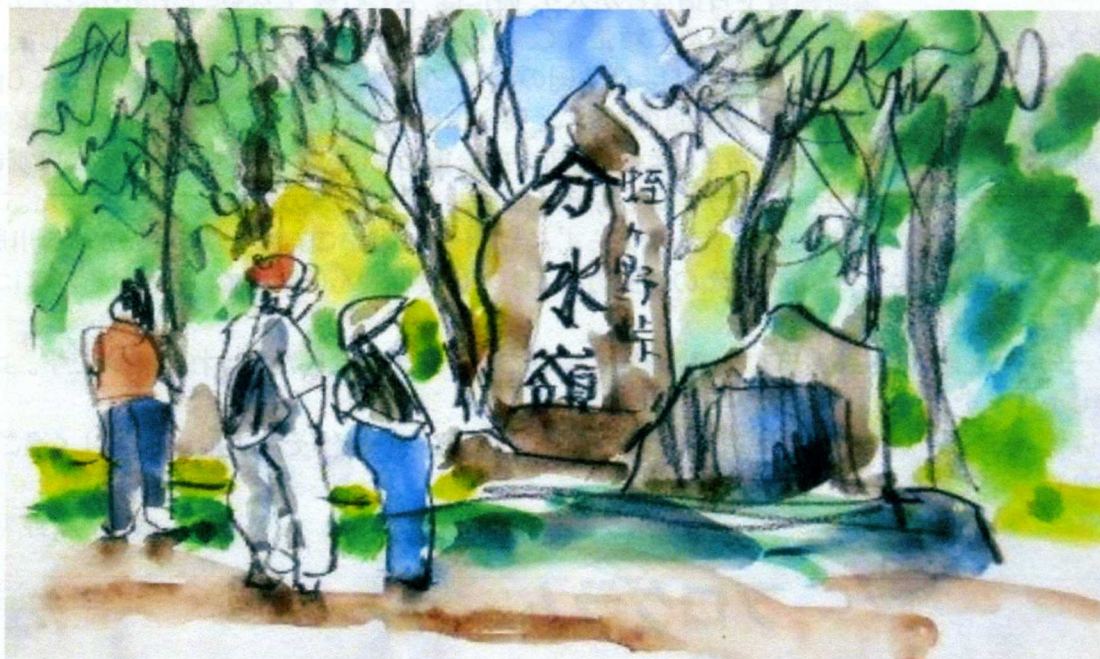


♫ Joyful male chorus ♫
『男声合唱を楽しむ会』
第4回 サロンコンサート



(ひるがの高原分水嶺:小平 画)



(8月8日~9日 夏合宿:ひるがの高原 民宿『からまつ荘』)

指揮・向川原 慎一 ピアノ・広江 さき
司会・伊藤 春雄

日時: 2009年11月1日(日)

開場 14:00 開演 14:30 終演 15:30

場所: 名古屋市音楽プラザ 1F コーヒーラウンジ(サロン)

主催 男声合唱を楽しむ会

H. P <http://homepage2.nifty.com/chorus-dandan/>

ご挨拶



本日はご来場いただき有難うございます。

当会は平成15年に三菱重工および三菱自動車のOBと現役の合唱愛好者が集って設立された会ですが、6年後の現在は一般の人にも多数ご入会頂き、総勢約30人が毎月2回(土または日曜日の午後)を定例練習日として、名前の通り“男声合唱を楽しんで”おります。

このサロンコンサートは3年前から、この音楽プラザで開いており、今回は4回目となります。皆さんに楽しく聞いていただく為に、コンサートが近くなると臨時練習や合宿などが入り、時には“苦しむ会”となることもありましたが、

会員の皆さんは更に大きな喜びを得るために頑張っており、本日のコンサートを迎える事ができました。

本日は3部構成で、第1ステージは日本および外国の歌で、少し長くて聞きごたえのある歌を、6曲とりあげました。指揮者の向川原さんが今回のために、特別に編曲して下さった初演の曲もありますのでどうぞご期待下さい。第2ステージは皆さんよくご存知の曲を集めましたので、気楽に一緒に口ずさんで下さい。第3ステージは本日のメインステージ、高田三郎作曲の「水のいのち」をとりあげました。この曲は今年になってから練習を始めたので10ヶ月足らず、まだ十分に歌いこまれていませんが、向川原さんの熱心なご指導と、ピアニストの広江さんのご協力により、何とか皆さんに聞いていただける程度にはなったと自負しております。

アンケート用紙を配布しておりますので、後程ご感想などをお聞かせいただければ幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。

最後には皆さんと一緒に歌う曲を用意しておりますので、終りまでどうぞ、ごゆっくりと楽しく過ごしていただければ幸いです。

会長 藤野 倫男

プログラム

♪ 第1ステージ 男声合唱愛唱歌より

- からたちの花……………北原 白秋 作詞 山田 耕祐 作曲 林 雄一郎 編曲
月……………瀧 廉太郎 作詞・作曲 向川原 慎一 編曲
落葉松……………野上 彰 作詞 小林 秀雄 作曲 向川原慎一 編曲
Now is the month of Maying……………T・モーリー 作曲
Sailing Sailing…………… 作者不詳 ロジャー・ワグナー 編曲
Climb Ev'ry Mountain……………オスカー・ハンマースタイン作詞 リチャード・ロジャース 作曲
向川原慎一 編曲

♪ 第2ステージ My song/Your song 「みんなて歌おう」

= 青春の懐かしい歌をもう一度 =

- 赤とんぼ……………三木 露風 作詞 山田 耕祐 作曲
みかんの花咲く丘……………加藤 省吾 作詞 海沼 実 作曲
ロンドンテリーの歌……………アイルランド民謡 鷺見 五郎 編曲 津川 主一 訳詞
夢路より……………フォスター 作曲 津川 主一 訳詞・編曲
トロイカ……………ロシア民謡 音楽舞踊団 カチューシャ 作詞 小林 秀雄 編曲
椰子の実……………島崎 藤村 作詞 大中 寅二 作曲 中野ひろ子 編曲

♪ 第3ステージ 男声合唱組曲「水のいのち」

……………高野 喜久雄 作詞 高田 三郎 作曲

♪ 全員合唱「浜辺の歌」

《 今までの活動 》

- 2003年4月 第一回設立準備委員会開催
- 2003年6月 第一回練習開催
- 2004年8月 「音の交流会」開催:三菱重工 健保会館
- 2005年4月 指揮者「向川原 慎一」先生招聘
- 2005年9月 愛知万博「『あいち・おまつり広場』公演
- 2006年8月 「ファミリー合同練習会」開催:音楽プラザ
- 2007年8月 「サロンコンサート」開催:音楽プラザ
- 2008年9月 「サロンコンサート」開催:音楽プラザ
- 2009年3月 「シルバーコーラス交歓発表会」出演
:中京大学文化市民会館
- 2009年11月 「サロンコンサート」開催:音楽プラザ

2008年9月21日 サロンコンサート



《 プロフィール 》

◆指揮 むかいがわら 向川原 慎一



早稲田大学第一政治経済学部卒業。長年にわたる合唱指揮・指導を行い、現在もいくつかの合唱団の指揮を務める。そのかたわら、歌曲を中心とした作曲活動が続け、2007年の奏楽堂日本歌曲コンクール・第15回作曲部門(中田喜直賞の部)では2曲が本選に進み、優秀賞と入選を得た。

また、合唱編曲では2008年春、カワイ楽譜から「混声合唱のための5つのトスティ歌曲」と「ドボルザークのジプシーの歌」が出版されている。小林研一郎氏に師事。

♥ピアノ 広江 さき



名古屋音楽大学音楽科 器楽学科 ピアノ専修卒業。

ハンガリー国立リスト音楽院ピアノ専攻終了。

シナフォークナショナル マスタークラス終了。

グラッシュ・マルタ インターナショナルサマーセミナーに参加。

日本ピアノ教育連盟オーディション奨励賞。

日本クラシック音楽コンクール全国大会入選。

♠司会 伊藤 春雄



三菱重工業株式会社 名古屋航空宇宙システム製作所に入社。

退社後、東海ラジオ『さん!さん! モーニング』を始め、岐阜放送、CBCラジオなど、数多くのパーソナリティを務める。

また鈴鹿サーキットで30年以上にわたってF1をはじめフォーミュラニッポン等のレースアナウンサーを担当。最近では地元コミュニティFM放送局を設立するために活動している。

《 曲目と歌詞 》

●第1ステージ 男声合唱愛唱歌より

「からたちの花」 北原 白秋 作詞 山田 耕筈 作曲 林 雄一郎 編曲

からたちの花が 咲いたよ
 白い白い 花が咲いたよ
からたちのとげは 痛いよ
 青い青い 針のとげだよ
からたちは畑の 垣根よ
 いつもいつも 通る道だよ
からたちも秋は みのるよ
 まろいまろい 金のたまだよ
からたちのそばで 泣いたよ
 みんなみんな 優しくったよ
からたちの花が 咲いたよ
 白い白い 花が咲いたよ



「月」 たき れんたろう 瀧 廉太郎 作詞・作曲 むかいがわら しんいち 向川原 慎一 編曲

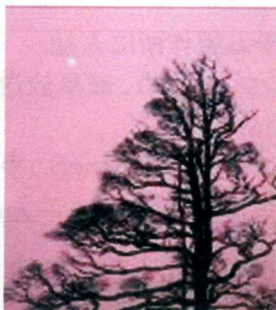
光はいつも 変わらぬものを
ことさら秋の 月の影は
 などか人に 物を思わせる

あゝ鳴く虫も 同じ心か
 声の 悲しき



からまつ 「落葉松」

野上 彰 作詞 小林 秀雄 作曲
むかいがわら しんいち
向川原 慎一 編曲



からまつ
落葉松の秋の雨に 私の手が濡れる
落葉松の夜の雨に 私の心が濡れる
 ひ
落葉松の陽のある雨に 私の思い出が濡れる
落葉松の小鳥の雨に 私の乾いた目が濡れる

Now is the month of Maying (今や五月の季節)

T. モーリー 作曲

春の訪れ ^{おとず} 喜びむかえ Fa la la la
冬の悲しさ どこかへ消えて Fa la la la
タイコたたき 踊り歌う Fa la la la
野辺 ^{のべ} はみどり 光あふれ Fa la la la
Now is the month of Maying,
When merry lads are playing. Fa la la la
Each with his bonny lass,
A dancing on the grass. Fa la la la



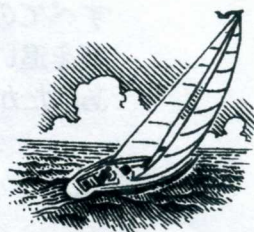
《概訳》

今や五月の季節、陽気な若者達が踊っている。
若者がかわいい少女たちと草の上で踊っている。

Sailing, Sailing (セーリング、セーリング)

作者不詳 ロジャー・ワーグナー 編曲

Sailing, Sailing over the bounding main.
For many a stormy wind shall blow e' re Jack comes home again.
Oh, heave ho! My lass, the wind blows free,
A pleasant gale is on our lee. And soon, across the ocean clear,
Our gallant barque shall bravely steer.
But e' re we part for foreign shores tonight,
A song we' ll sing for home and beauty bright.
Then here' s to the sailor and here' s to the hearts so true.
Who will think of him upon the waters blue.
Sailing, Sailing over the bounding main,
For many a stormy wind shall blow e' re Jack comes home again.



注: e' re = before

《概訳》

進め、進め、波高き大海原を越えていこう。
俺たちが家に帰りつく前に、嵐がいくつもやってくるぞ。
よいと引け、錨を巻き上げろ、追い風が吹いている。
幸先いいことに強い風の風下にいる。
やがて晴れ渡った海を、我々の船は順調に進んで行くだらう。
しかし、今夜異国の地を離れる前に、祖国と美しい女性たちの為に歌を歌おう。
そして水兵に乾杯、青い海原の上の俺たちを心から思ってくれる人達に乾杯！
進め、進め、波高き大海原を越えていこう。
俺たちが家に帰りつく前に、嵐がいくつもやってくるぞ。

Climb Ev'ry Mountain (すべての山に登れ)

O. ハンマーstein 作詞 R. ロジャーズ 作曲
むかいがわら しんいち
向川原 慎一 編曲

Climb ev'ry mountain, search high and low,
Follow ev'ry byway, ev'ry path you know.

Climb ev'ry mountain, Ford ev'ry stream,
Follow ev'ry rainbow, till you find your dream !

A dream that will need all the love you can give,
Ev'ry day of your life for as long as you live,

Climb ev'ry mountain, Ford ev'ry stream,
Follow ev'ry rainbow, till you find your dream !

A dream that will need all the love you can give
Ev'ry day of your life for as long as you live,

Climb ev'ry mountain, Ford ev'ry stream,
Follow ev'ry rainbow, till you find your dream

《概訳》、

すべての山に登れ、高いところ、低いところ、わき道を探して
すべての山に登れ、沢の流れに沿って
虹を追いかけて、あなたの夢が見つかるまで
あなたが生きている限り与えることの出来る全ての愛の夢

●第2ステージ

青春の懐かしい歌をもう一度 (My Song Your Song)

「赤とんぼ」

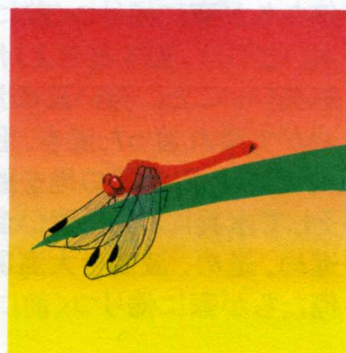
三木 露風 作詞 山田 耕筈 作曲

夕焼け小焼けの 赤とんぼ
負われてみたのは いつの日か

山の畑の 桑の実を
こかご っ
小籠に摘んだは まぼろしか

十五で^{ねえ}姐やは 嫁に行き
お里の便りも 絶えはてた

夕焼け 小焼けの 赤とんぼ
とまっているよ 竿の先



「みかんの花咲く丘」

加藤 省吾 作詞

海沼 実 作曲

みかんの花が 咲いている
思い出の道 丘の道
はるかに見える 青い海
お船が遠く かすんでる

黒い煙を はきながら
お船はどこへ 行くのでしょうか
波にゆられて 島のかげ
汽笛がぼうと 鳴りました



いつか来た丘 母さんと
一緒に眺めた あの島よ
今日もひとりで 見ていると
やさしい母さん 思われる。

「ロンドンデリーの歌」

アイルランド民謡

鷺見 五郎 編曲

津川 圭一 訳詞

わが児よ ^こいとしの ^{なれ}汝を ^{ちちぎみ}父君の形見とし
こころして ^{いつく}愛しみつ 今日まで 育て上げぬ
古き家を ^{すだ}巢立ちして 今 ^{なれ}はた 汝はいずこ
よわき 母の影さえも ^{お お}雄雄しき ^{なれ}汝には 見えず

はてしなき ^か彼の ^{みち}路の ^{なれ}あなたに 汝はゆきぬ
むなしき わが家をみれば 亡き父君 おもわる
足元の 草むらより 立つは ^{ひばり}さえずる雲雀
ああ我も 強く立ちて わが家の ^{ほまれ}栄誉をまもらん



「夢路より」

フォスター 作曲

津川 圭一 訳詞／編曲

夢路より かえりて 星の光 仰げや
さわがしき 真昼の ^{わざ}業も 今は終わりぬ
夢見るは わが君 聞かずや わが調べを
^{なりわい}生活の うれいは 跡もなく 消えゆけば
夢路より 帰り来よ

Beautiful Dreamer, wake unto me
Starlight and dewdrops are waiting for thee;
Sounds of the rude world heard in the day,
Lull'd by the moonlight have all pass'd away !
Beautiful Dreamer queen of my song.
List while I woo Thee, with soft melody;
Gone are the cares of life's busy throng,
Beautiful Dreamer awake unto me !

海辺より 聞こゆる 歌の調べ きかずや
立ちのぼる 川霧 朝日うけて ^{かがよ}輝う
夢見るは わが君 明けゆく み空の色
悲しみは ^{くもい}雲居に 跡もなく 消え行けば
夢路より 帰り来よ

「トロイカ」

ロシア民謡 音楽舞踊団カチューシャ 作詞
小林 秀雄 編曲

雪の白樺並木 夕日が映える
走れトロイカ ほがらかに 鈴の音高く

ひびけ若人の歌 たかなれバイヤン
走れトロイカ かるやかに粉雪けて

黒い瞳が待つよ あの森こそば
走れトロイカ 今宵は楽しいうたげ



「やしの実」

島崎 藤村 作詞

大中 寅二 作曲
中野ひろ子 編曲



名も知らぬ 遠き島より
流れ寄る 椰子の実ひとつ
故郷の 岸を離れて
なれはそも 波に幾月

もとの木は おいやしげれる
枝はなお影をやなせる
我もまた渚を枕
ひとり身の うきねの旅ぞ

実をとりて 胸にあつれば
新たなり 流離の憂い
海の陽の沈むを見れば
たぎりおつ異郷の涙

思いやる やえの潮じお
いずれの日にか国に帰らん

●第3ステージ

男声合唱組曲『水のいのち』

高田 三郎 作曲 高野 喜久雄 作詞

「1. 雨」

降りしきれ雨よ 降りしきれ
すべて立ちすくむ ものの上に
また 横たわるものの上に
降りしきれ雨よ 降りしきれ
すべて許しあう ものの上に
また許しあえぬ ものの上に
降りしきれ雨よ わけへだてなく
か
潤れた井戸 踏まれた芝生
こと切れた梢 ^{こずえ} なお踏み耐える根に
降りしきれ そして立ちかえらせよ
井戸を井戸に 庭を庭に
^{こだち} ^{こだち}
木立を木立に 土を土に
おお すべてを そのものに
そのもの手に



○終始静かだが、全てのものに、しとしとと落ちる雨を静けさの中で、表現している。全体の中で序曲の雰囲気を持っている。いかなる状況の者にもやさしく慈愛の雨が降り注ぐ様子を描いている。

「2. 水たまり」



○降り注いだ雨が命を持ち、少しずつ動き出す前触れのような美しさを持つが、水たまりの泥に人間社会の醜さを写し、また水たまりの水面が美しい空を写すことで、人の焦がれる気持ちを表現してる

わだちのくぼみ そのこのこの
くぼみにたまる 水たまり
流れるすべも めあてもなくて
ただ だまってたまるほかはない
どこにでもある 水たまり
やがて 消え失せてゆく 水たまり
私たちに ^に 肖ている 水たまり

わたしたちの深さ それは泥の深さ
私たちの言葉 それは泥の言葉
泥のちぎり 泥のうなずき 泥のまどい

だが私たちにも 命はないか
あの水たまりの にごった水が
空をうつそうとする
ささやかな
けれどもいちずな 命はないのか

うつした空の 青さのように
澄もうと苦しむ 小さな心
うつした空の 高さのままに
在ろうと苦しむ 小さな心

「3. 川」

何故 さかのぼれないか
何故 低い方へゆくほかはないか
よどむ淵^{ふち} くるめく渦のいらだち
まこと 川は山にこがれ
きりたつ峰にこがれる命
空の高みに こがれる命
山にこがれて 石を身ごもり
空にこがれて 魚をみごもる
さからう石は 山の形
さかのぼる魚は 空を耐える
だがやはり 下へ下へと
ゆくほかはない 川の流れ
おお川は何か
川は何かと 問うことをやめよ
私たちもまた 同じ石を
同じ魚を身ごもるもの
川のこがれを こがれ生きるもの



○逆巻く川の激流が、人間たちの生きる悲しみや憧れといったものを代弁的に歌い上げる。メロディと詩は美しく、強く印象に残る。中学・高校の合唱部や合唱発表ではこの曲のみを単独で取り上げて演奏することも多い。

「4. 海」



○たゆたう大きな海の描写であり、全てを湛えて受け入れていく海の静かなさまを表現する。なお、作曲者は「演奏上の注意」などで、終盤で繰り返される海からのメッセージについて、大自然が人類へ詰問するように歌って欲しいという要望を記している。

空をうつそうとして
波一つなく^な 凪ぐこともある
岩と混じれなくて
ひねもす たけり狂うこともある
しかし^{すべ} 凡ての川はみな
そなたをさして常に流れた
底に沈むべきものは沈め
空に返すべきものは
空にかえした
人でさえ 行けなくなれば
そなたをさしてゆく
そなたの中の一の母を
さしてゆく
そして そなたは^{ときへ} 時経てから
充ち足りた死を
そっと 岸辺にうち上げる
みなさい これを見なさい
と云いたげに

「5. 海よ」

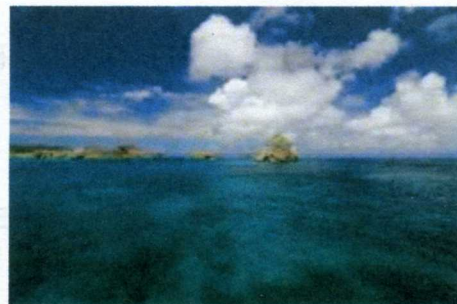
ありとある芥^{あくた} よごれ疲れ果てた水
受け容^いれて すべて受け容^いれて
つねに あたらしくよみがえる 海の不可思議
休^{なごさ}まない汀 波の指 白い指 くりかえしうまず
くりかえし 億の砂 億の小石を 数え続ける
海の不可思議。

くらはげは海の月 ひとでは海の星
海^{うみぼたる} 海の馬 空にこがれ
あこや貝は 光を抱いている
そして深く暗い海の底では
下から上へまこと 下から上へ雪は
白い雪は降りしきる

おお海よ たえまない始まりよ
あふれるにみえて あふれることはなく
終るかにみえて 終ることもなく
億年のむかしも いまもそなたは
いつも始まりだ おお空へ空の高みへの
始まりなのだ

のぼれのぼりゆけ そなた水のこがれ
そなた水のいのちよ

たとえ己^{おのれ}の重さに 逆らいきれず雲となり
また ふたたび降るとしても
のぼれのぼりゆけ みえないつばさ
いちずなつばさ あるかぎり
のぼれのぼりゆけ おお



○海に戻った水のいのちが再び空に昇り、雨となり川となり、再び新たな水のいのちとして生まれていく姿を描いており、輪廻を繰り返す生の悲しみや喜びを表現する。全曲の中でこの曲のみ長大な曲となっており(演奏に7分程度を要する)、曲も起伏に富んだスケールの大きい構成になっている。

《解説》

水のいのち(みずのいのち)は、名古屋出身の作曲家高田三郎が作曲した混声合唱組曲(1964年)。詩は高野喜久雄による。

TBSの委嘱作品であり、1964年11月10日、山田和男指揮、日本合唱協会、川村深雪のピアノ伴奏により初演された。

日本の合唱曲の中では特に人気が高い作品である。混声合唱版の楽譜だけでも100刷を超えており、今もなお、合唱楽譜売り上げの上位に位置している。後に、女声合唱や男声合唱にも編曲されているが、混声・女声・男声3バージョンが揃うのは、当時としては異例であった。

音楽評論家の宇野功芳^{うのこうほう}は、『クラシックの名曲・名盤』の中で、この現象を「前代未聞」と書いている。宇野はこの本の締めくりに「水のいのち」を選び、CDには、自分の指揮した女声合唱版を推薦した。

作曲家の死後、イタリア語バージョン「L'Anima dell'acqua」、トーマス・マイヤー＝フィービッチによる管弦楽伴奏版、今井邦男による弦楽合奏伴奏版なども生まれている。

今年から来年にかけて全国各地で、高田三郎没後10周年に向けた公演が計画されている。

(解説出典:フリー百科辞典 Wikipedia)

●全員合唱 「浜辺の歌」

〔楽譜／歌詞：裏表紙を参照下さい〕

《 役員 》

■ 会長 : 藤野 倫男 ■ 総務 : 岩崎 幸男 ■ 会計 : 大内 住夫

■ 渉外 : 三宅 宏幸 岩田 照雄

■ パートマネージャ :

(T1) 三宅 宏幸 岩田 照雄 (T2) 堀尾 貞臣 桂川 昇
(B1) 片山 正之 塚原 徹也 (B2) 大嶋 順治 木村 幹夫

■ 広報 : 井田 三郎 ■ 楽譜 : 木村 幹夫

■ 技術 : 小平 康義 磯田 桂司

《 出演者名簿 》

T1: 磯田 桂司 井田 三郎 岩田 照雄 向後 宣彦 小平 康義
 中村 宏 橋本 光正 三宅 宏幸 横田 勉 (9名)

T2: 大河内康二 桂川 昇 高瀬 幸夫 田口 参之
 林 光明 堀尾 貞臣 門間 清秀 横井 邦明 (8名)

B1: 岩崎 幸男 大内 住夫 片山 正之 古賀 寛哉
 塚原 徹也 藤野 倫男 (6名)

B2: 遠藤 恭之 大嶋 順治 加藤 良 木村 幹夫 田中 昭
 寺田 義幸 古田 和則 丸山 青朗 由比 健郎 (9名)

●●● 会員募集中 いっしょに歌いませんか? ●●●

- ・練習日 : 月2回 (第2土曜日及びその後2週後の日曜日)
- ・練習場所 : 名古屋市音楽プラザ(金山) 他 名古屋市内文化小劇場
- ・会費 : 2,000円/月(学生 無料) (入会金 1,000円)
- ・問合せ先 : 岩崎幸男(090-6593-4831) 片山正之(052-773-3901)
 古田和則(090-2478-9708) 大嶋順治(090-1292-4378)
 岩田照雄(090-5094-4773) 三宅宏幸(090-4798-5127)
- ・会の理念 : 歌をこよなく愛し、何時までも若々しく、お互いがお互いを理解し合い、歌を通じて健康で明るく豊かな人生を送る。
- ・会の目標 : より深く、熱い情熱を持って自分たちの音楽を模索し続け、他に類のない合唱団を目指す。

(練習風景)



《 全員合唱 》

浜 辺 の 歌

作詞 林 古 溪
作曲 成 田 為 三
編曲 和 泉 一



1. あ し た—は ま—べ—を さ—ま—よ え—
2. ゆ う べ—は ま—べ—を も—と—お れ—



ば — む か し—の こ—と —ぞ し—
ば — む か し—の ひ—と —ぞ し—



の —ば る る — か ぜ のお — と よ く
の —ば る る — よ す る な — み よ か



も の さ ま よ — よ す る — な —
え す な み よ — つ き の — い —



み — も か — い の い ろ も —
ろ — も ほ — し の か げ も —

「浜辺の歌」

林 古 溪 作詞

成 田 為 三 作曲

和 泉 一 編曲

あした浜辺を さまよえば
昔のことぞ 忍ばるる
風よ音よ 雲のさまよ
寄する波も 貝の色も

ゆうべ浜辺をもとおれば
昔の人ぞ 忍ばるる
寄する波よ 返す波よ
月の色も 星のかげも